

2023 年度第 4 回・2024 年第 1 回合同評議員会議事録

日時：2024 年 3 月 30 日（土） 14：00 ～ 17：00

場所：東京大学本郷キャンパス理学部化学本館 4F 講義室と Zoom によるハイブリッド会議
出席者※：

足立伸一^{b,z},井上豪^{a,b},植草秀裕^{a,b},海野昌喜（庶務幹事）^{a,b},大原高志^{a,b,z},河野正規^{a,z},久保田佳基^b,熊坂崇^{a,b,z},栗栖源嗣^{a,b},小島優子^{a,b,z},小松一生（監査役）^{a,b},坂田修身^{a,b,z},菅原洋子^{a,b},杉本邦久（広報幹事）^{a,b},関根あき子^{a,b},千田俊哉^{a,b},千田美紀^a,玉田太郎^b,藤間祥子^{a,b},中川敦史（会長）^{a,b},中塚晃彦（編集幹事）^{a,b},南後恵理子^{a,b,z},西堀英治^{b,z},禾晃和（会計幹事）^{a,b},橋爪大輔（行事幹事）^{a,b},濱田麻希（男女共同参画幹事）,藤井孝太郎^{a,b},宮原郁子^{a,b},森吉千佳子^{a,b,z},山下恵太郎^b,山縣ゆり子（監査役）^z,山田悠介（情報幹事）,山本雅貴^{a,b}
委任状出席者※：五十嵐教之^a,上村みどり^{a,b},尾関智二^{a,b},平田邦生^a,姚関^a

欠席者※：なし

議長：中川敦史^{a,b}（会長）

議事録作成者：海野昌喜（庶務幹事）^{a,b}

※2022 年度第 4 回評議員会（定数 30，構成員は^aで表記）：出席 25，委任状出席 5
2023 年度第 1 回評議員会（定数 30，構成員は^bで表記）：出席 28，委任状出席 2
Zoom 出席者（^zで表記）

（五十音順）

上記のとおり定足数に足る評議員の出席があったので、議長は定刻に開会を宣し、下記のとおり議事に入った。また、議事録署名人として海野評議員が選出された。

議事

音声に問題なく議事進行に支障がないことを確認した。報告、審議に先立ち、新旧評議員と各委員会幹事の紹介が行われた。

報告事項

1 幹事報告

1.1 庶務幹事報告（海野務幹事）

2023 年 10 月 1 日から 2024 年 3 月 15 日までの会員の異動状況が報告された。2023 年 3 月 15 日現在、会員数が 1021（個人会員 1002 名、賛助会員 19 社）である。学会共催等依頼について、協賛依頼 2 件、後援依頼 1 件が報告された。

1.2 会計幹事報告（禾会計幹事）

監査報告書が提示され、一般社団法人としての 2023 年度決算（2023 年 2 月 1 日～2024 年 1 月 31 日）が報告された。単年度収支で、1,164,214 円の黒字（国際会議口振替分を差し引くと 164,214 円の黒字）となったことが報告された。2023 年度においては、租税公課（法人税）の控除として認められる支出項目が、例年より少額であったため、前年度より租税公課（法人税）の支出が高額となった。選挙関係費が予算に対して超過している点に

においては、これまでの選挙においても支出していた選挙委託費を計上していなかったためであり、新たに発生した経費ではないことが説明された。国際会議の招致のための積み立て金（2022年度～2024年度）が特別会計の国際会議口に移されたことが報告された。リガクファンドロに関しては、IUCr2023への参加助成や対称性講座の支出、年会でのポスター懸賞費に使用した旨が報告された。また、今年度はAsCA2024の参加援助への出費が予定されていることが説明された。

1.3編集幹事報告（中塚編集幹事）

会誌の発行状況と特集について報告されるとともに、次号の準備状況と特集について報告された。

1.4行事幹事報告（橋爪行事幹事）

2024年度の日本結晶学会年会（2024年11月8～10日、名古屋大学、東山キャンパス）の開催計画について報告された。年会のホームページが立ち上げられており、随時、更新が行われているとのことであった。2025年度は、AsCA2025を台湾との共同開催するため、日本での日本結晶学会年会は開催せず、2026年度の日本結晶学会年会は、東北大学の片平キャンパスでの開催計画であることが報告された。昨年度から行われているオンライン講演会「CrSJ Keynotes」の企画についての報告が行われた。新企画の若手のための「CrSJ Rising Stars」については、2023年度の講演者の応募はなかったが2024年度も継続して募集することが示された。対称性・群論トレーニングコースおよび粉末X線解析の実際の開催計画について報告された。

1.5情報幹事報告（山田情報幹事）

日本結晶学会ホームページの更新・閲覧状況について報告された。評議員会の議事録の更新が滞っていたことが説明された。

1.6広報幹事報告（杉本広報幹事）

メールマガジン「日本結晶学会からのお知らせ」、会員からのお知らせ「日本結晶学会ニュース」の配信、およびIUCr Newsletterへの投稿実績について報告された。また、メール配信について800件中69件の配信エラーが生じている（2024年3月15日現在）問題が報告され、アドレス変更の際には必ず情報を更新するように注意喚起があった。

1.7男女共同参画推進幹事報告（濱田男女共同参画推進幹事）

男女共同参画学協会連絡会から『子育て環境整備に向けた企業の使命～雇用におけるジェンダー格差の抑制が不可欠』と『年会企画のお知らせ』のお知らせを広報幹事・事務局に依頼した旨、報告があった。また、年会企画の後に『無意識のバイアスとダイバーシティー』のアンケートの集計を行ったことが報告された。

2 AsCA 関連（小松 AsCA 評議員）

今後の会議予定（AsC2024（マレーシア）、AsCA2025（台北））が示された。AsCA2024の会場がKuala Lumpur Convention Centreに変更になったことが報告された。AsCA会長より依頼のあった結晶学・構造科学における若手研究者のグループのメンバーについて、日本結晶学会より2名をAsCA評議員を通じてIUCrに推薦したことが報告された。

3 IUCr 関連（中川 IUCr 分科会委員長）

IUCr2023 において確定した、2023～2026 年の Commission Member が示された。また、日本学術会議の第 26 期において IUCr 分科会が 2023 年 10 月 1 日に発足し、2024 年 3 月 22 日に分科会が開催され役員が選出されたこと、IUCr 分科会メンバーを IUCr 国内委員として IUCr に報告したことが報告された。ISC（国際学術会議）での今後の活動に関する意見交換・交流会、および第 3 回 ISC プラットフォーム会議が行われたこと、および ISC の政策提言のための専門家登録制度への参加募集について報告された。

4 日本学術会議関連（菅原評議員（第 25 期結晶学分科会委員長））

4-1. 結晶学分科会関連報告として、日本学術会議第 26 期結晶学分科会が 2023 年 12 月 27 日に発足し、2024 年 3 月 22 日に分科会が開催され役員が選出されたこと、第 26 期活動方針として、結晶学の切り口で「次世代につないでいく」ことをテーマにシンポジウム開催などの活動を企画していくことが報告された。

4-2. 学術会議の動向として、学術会議の在り方に関する有識者懇談会の中間報告がまとめられ、これを受けて内閣府担当大臣決定として「日本学術会議の法人化に向けて」が出されたこと、これに対して、日本学術会議として懸念点が表明されていることが報告された。

5 その他

5-1. 杉山次期会長から台湾との共催の AsCA2025 に合わせて、結晶学会の評議員会と総会だけを別途実施するための準備について報告があった。

5-2. 海野庶務幹事より 2024 年度の日本結晶学会西川賞・学術賞・進歩賞の候補者推薦の依頼があった。

審議事項

1. 会員異動

2023 年度第 3 回評議員会以降の新規入会者の紹介、入会申込書類の閲覧があり、全員の入会が満場一致で承認された。

2. 共催・協賛・後援

共催等依頼について別紙記載の協賛 2 件及び後援 1 件（計 3 件）が満場一致で承認された。

3. 新幹事・新監査役

2024～2025 年度の新幹事（8 名）・新監査役（2 名）について、満場一致で承認された。

4. 2023 年度決算

2023 年度決算が満場一致で承認された。

5. Web 入会申請について

海野庶務幹事より、入会手続きについて、学会事務局の委託先である国際文献社が提供する Web 入会申請システムへの移行についての提案があった。入力内容については、現在の入力事項を継承し、本会正会員、永年会員、終身会員、名誉会員のいずれかの紹介者を記載、また、学生会員については、学生の身分を証する情報を添付し、入会申請フォームから本会に提出することになった。この入会申請の手続きの変更にあわせて、細則、第 1 章、第 1 条を改訂することが満場一致で承認された。入会申請フォームの作成については、次期執行部が行い、評議員会に諮ることになった。

6. AsCA 評議員について

杉山次期会長より、宮原会員と久保田会員が 2023 年度で AsCA 評議員を任期満了となる

ため、後任として禾会員と森吉会員を推薦する案が示され、満場一致で承認された。

7. 震災時の年会費、年会参加費について

海野庶務幹事より、本年、1月1日に起きた令和6年能登半島地震に際し、年会費の免除および2024年度年会参加費の免除が、評議員会のメール審議によって決定したことについて説明があった。今後は、同様のケースについては、評議員会の承認なしに、速やかに年会費および年会参加費を免除する案が示されたが、メール審議であれば、迅速性を担保できるとの意見が多く出されたため、今後もメール審議より諮ることになった。

8. 出張費の宿泊代支給の引き上げについて

海野庶務幹事より、本会の用務による宿泊費は1万円を上限としていたが、近年の物価上昇などに伴い、宿泊代が高騰していることが説明された。今後は、国公立大学の宿泊費の基準である1万3000円を基準とし、高額となる場合は、領収書を提出した上で会長、庶務幹事、会計幹事と相談により上限を決定することが満場一致で承認された。

9. 日本結晶学会 公式 SNS 開設について

橋爪行事幹事、山田情報幹事、杉本広報幹事より、現在、広報活動（情報発信）が学会誌、ホームページ、メーリングリストのみであるが、会員への情報展開の強化だけでなく、非会員の行事への参加・入会促進のための広報活動としてのSNSの活用について提案があった。世界的に活用されているSNSは、無料で利用できる反面、それぞれの異なった特徴を有する情報発信となるため、本会で使用する場合には、それぞれのSNSの特徴を把握した上で活用すべきとの意見が出され、次期執行部において継続的に検討することになった。

10. 電子帳簿法に対応する規程の作成について

禾会計幹事より、電子帳簿保存法に対応する規程の作成について提案があった。本会として対応しなければいけない要件は、電子取引データの保存、可視性の確保（検索性の確保）、真実性の確保である。この中で真実性の確保については、規程の改定が必要であり、「帳簿の訂正は原則おこなわない、訂正や削除する際は所定の記録を残す」を内容とする規程案が示され、満場一致で承認された。

11. 次回評議員会日程

次回（2024年度第2回）評議員会の日程と会場について、7月6日（土）に東京工業大学の大岡山キャンパスにて開催することとなった。形式は、対面形式であることが告げられた。

以上